



「なめがたファーマーズヴィレッジ」
開村記念対談

なめがたファーマーズヴィレッジの開村を記念し、鈴木市長となめがた大使の永作博美さんが対談を行いました。

永作さんは、やきいもミュージアムのやきいもの妖精「焼き右衛門」の声優も務めています。

(対談日：平成27年10月27日(火))

なめがたファーマーズ
ヴィレッジについて

◎なめがたファーマーズヴィレッジ

市長 こんにちは。昨年8月にお会いしてから、今回で2回目の対談になります。今日は、「なめがたファーマーズヴィレッジ」のオープンングにご一緒できてうれしく思います。

さて、今回オープンした施設は、「行方のサツマイモ」を使用した体験型農業テーマパークです。

市としても地域活性化に大いに期待しているところですが、ご覧になって、どんな印象を持たれましたか。

永作 10年くらいお話がされて、すごい大構想ですね。

市長 10年くらい前、白ハト食品工業株式会社（以下白ハト）がサツマイモを仕入れた時からスタートしています。ここはそんなにサツマイモが多くはなかったんですけども、品質が良い物がずいぶん出ていたみたいですね。

永作 白ハトさんのおっしゃってることとか、エネルギーッシュですよ。力強い言葉に、何か頑張っしてほしいなっと思っていますし、お力になれたらなっと思っていますね。

◎農と食

市長 今日はおイモの話ですけど、おイモは食べますか。

永作 食べます。母が取っておいてくれた白ハトさんの大学芋をいただきます。

した。すごくおいしかったです。すぐ甘いですよ。

市長 止まらなくなりました。

市長 行方では、こういったおイモとか、農産物が多いですけど、お料理には地元のものを使ったりしますか。

永作 そうですね。母に送ってもらったりして、こちらの物も使わせていただいています。

東京のスーパーなどにも、「行方産」はずいぶんと並んでいるので、ちょっと探してみたりしますね。

市長 ありがとうございます。自然に「行方産」を探してしまいますか。

永作 はい。産地はちょっと見ちゃいますよ。

市長 前回は聞きましたが、確か調理師免許を持っているんですよ。

永作 一応持っています。

永作 いえいえ、普段毎日作ってらっしゃる方には、もう勝てません。もうできる限りで、何とか子どもに作ってみたいです。

市長 子どもに作った物、母親の味というのには、必ず自分の味になるわけです。やっぱりどこに行っても、家で食べるとご飯がおいしいと感じるんですね。

永作 そうですね。そうなってくれるといいなと思いますね。

市長 間違いなくと思いますよ。

仕事について

◎台北映画祭

市長 これまでたくさん映画やドラマに出演され、2011年には第54回ブルーリボン賞や第35回アカデミー賞を受賞しています。

今年台湾の方以外では初めて、「さいはてにて」で台北映画祭を受賞されましたね。おめでとございます。

永作 ありがとうございます。最優秀主演女優賞をいただきました。まさか、違う国で賞をいただきました。思っていたのが、私もびっくりしました。監督が台湾の方だったので、台湾の賞レースにも出したようなんですけどね。

市長 こういった賞を数々受けられるという事は、自分なりに何かありますか。

永作 地に足の着いたこの大地で育ったのが大きいのではないのでしょうか。この土地の野菜を食べ、米を食べ、水を飲み、大きくなりましたからね。

市長 そうですね。私もそうでしたね。そういう物がベースとしてあるという事が一番大切なのかなと思いますよね。

◎地域活性化

永作 今回のなめがたファーマーズヴィレッジで、また農業について考え

る機会がありました。耕してその土地を豊かにしていくというのは、輝かしい仕事だと思えますよね。そこはぜひ誇りにして、茨城県と行方市をどんな活性化してほしいなと思えますよね。

市長 そうですよ。生命の源を作る仕事っていうことは、やっぱり大きいですよ。我々もそういう形で頑張っていきたいと思うんです。

永作 若者たちを招致して、若者村をつくって、家族をつくって。そんな光景がまた見たいですね。

市長 それこそ地方創生の基本だと思います。

◎今後の活動予定

市長 最近、トークショーや舞台にも数多く出演していると聞いています。今度は主演で出演すると聞いていますが舞台ですか。

永作 平成28年ですけど、「頭痛 肩こり 樋口一葉」という作品で、樋口一葉さんを演じます。

井上ひさしさんの原作なんですけれども、樋口一葉さんはすごく近眼だったらしく、それで頭痛も肩こりも疲労も大きかっただろうということらしいです。あと、長女だったために、父が早くに亡くなってしまった後も家計を支えて大変だったといえます。そしてその時代には珍しく女流作家を目指していたとのこと。そういう意味で肩身の狭い思いも

あったらうということ、ちょっと皮肉がかった笑えるブラックジョークのようなタイトルをつけたのだと思います。今回の舞台も、明治時代の女性の群像劇のような、かなりユーモラスなお話になっています。

◎平成28年の抱負

市長 平成28年のお仕事ですけど、どういふことを気にかけて、どういう気持ちで取り組んでいこうと思っていますか。

永作 縁があってこのお仕事に就いていると思うので、その縁を大切に、それをもっと大切に掘り下げて、新しい人間を目指していけたらと思います。それでみなさんに楽しんでいただくことが、心の活性化にもなると思っています。また、行方の野菜を食べていただいて、みんながぜひ体を養っていただきたいと思っています。

行方市民へのメッセージ

◎メッセージ

市長 なめがた大使としてでも、女優としてでも、地元出身としてでも結構ですので、市民に向けてメッセージをお願いいたします。

永作 なめがたファーマーズヴィレッジには、ぜひ足を運んでいただきたいなと思います。東京にいる私にとっては、この広大な土地が本当に気持ちいいなと思います。

工場見学も体験型ミュージアムも

おもしろいと思います。遠足なんかで、きつとみんなでぎわうんだろかなとちょっと想像しちゃいました。あと、「焼き右衛門」の声もさせていただいています。ぜひミュージアムの中に入って、「焼き右衛門」からやきいもの歴史を学んでいただけたらなと思います。

◎おわりに

市長 市長として、市民や市外の方に向けての発信力が必要だと思っています。「行方」が読めなくても覚えていただくことはできると思うんです。なめがたファーマーズヴィレッジはもちろん、自分たちが育ってきた畑や田んぼや水や空気とかを、いろいろな所にどんどん発信したいと思っています。

永作 農業に関しては、しぼんできていると思いますので、すごいプロジェクトだと思っていますね。

市長 そうですね。情報を発信していかないと、外の人はなかなか覚えてくれないから、地道に地道に続けることですね。

永作 そうなんです。浸透するまでには、やはり努力と時間が必要ですよ。そこに負けてはいけないうところですね。

市長 そのとおりです。そのためには心折れずに、まっすぐまっすぐ進んでいこうかと思っています。今日は、本当に大変貴重な時間をいただきまして、ありがとうございました。